

特別賞

みどりののはらであそぼうよ

Cviljusac Franziska

本のカバーは二人の子供と犬の一匹とウサギの一匹の絵があります。いっしょに遊んで、楽しい生活の印象を与えています。本の中の絵を見ると同じ雰囲気であるくて可愛いです。

でも本を開けて話もつと怖しく見れば、深い意味がある本とよく分かります。話の中ではある家族のペットのベンちゃんという犬はウサギの友達が居て、いつも一緒にいます。でもある日にベンちゃんは年を取って、死んでしまって、皆さんは悲しいです。特にウサギちゃんは悲しくて食べられません。しかし夏の暑い日に家族は子犬が一匹連

れて帰りました。名前はパピちゃんです。パピちゃんは元気な子犬でウサギちゃんと友達になって、今ウサギちゃんは年上になっています。最後では皆さんがハッピーでいつまでも遊んでいます。

わたくしの意見ですが、この話の意味は生活の循環についてだと思います。

皆さんは生活をたのしんでも、いつかは誰でも死ぬことです。それは100パーセントのことなのに、人間は死ぬことについてあまり考えたくありません。現在の社会では死ぬはタブーのテーマになってしまって、公然的で話しません。でも人生の最初のところから子供を生活のことについて説明するのは大事だと思います。そして死ぬことも人生の中で必要な部分です。死亡は人生の終わりです。つまり万事は始まりと終わりがあるという意味で

す。私たちはこの事実を子供に伝える義務がある
と思います。今読んだ話ではこの事実もよくわか
ると思います。この以外、誰がなくなってから悲
しいけれども、生活は続けまるという伝えもあり
ます。ウサギちゃんは新しい友達を見つけて、前
の友達はいなくても楽しい人生ができるというメ
ッセージです。そして私を読んだ本の作家さんは
イギリスからの人ですが、世界中で人生が分かる
話だと思います。

教育的な本だから、もしわたくしも子供が居たら
この本も読みあげたいと思います。